

大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪 OSAKA あそび歩 ASOBO

① 木津川飛行場跡の碑

大正12年(1923)淀川支流の木津川尻立地に、我が国最初の本格的な民間飛行場「大阪木津川尻飛行場」が開設。当初は水上飛行場でしたが、すぐに陸上機機能を持つようになり、大正13年(1924)には「春風号」(川西K6型)が、我が国初の日本一周飛行に成功しています。その後、航空局が船町の軍用地と私有地を飛行場用地に内定。389,400平方メートルを整備して昭和4年(1929)に日本初の公共飛行場「木津川飛行場」(大阪飛行場)として供用を開始しました。同年には東京・大阪・福岡を結ぶ定期旅客便が開始され、「エアガール」(スチュワーデス。客室乗務員)第1号も、木津川飛行場から誕生しました。運賃(当初)は大阪~高松間で40円という記録が残っています。昭和13年(1938)には定期の年間発着回数5,107回、不定期3,676回、旅客10,124人、取扱貨物38,700余キログラム、郵便97,700余キログラムと当時の記録を記録。しかし発着数がキャパシティを越えたため、昭和14年(1939)、大阪第二飛行場(伊丹飛行場)に移転。あえなく閉鎖されました。現在、中山製鋼所構内に飛行機格納庫が残っています。

② 木津川

慶長15年(1610)に中村勘助が木津川に豊臣家の軍船係船所を建設。同時に堤防を築いて新田開発を行い、豊臣家より勘助島(現・大正区三軒家)の名が与えられました。元禄12年(1699)に河村瑞賢が難波島を開削して木津川の水流を改良。宝永5年(1708)に幕府が木津川口遠見番所を設けると、諸国の船で賑わって木津川は大坂経済を支える大動脈となり、朝鮮通信使の船なども出入りしました。天保3年(1832)には航行改善のために木津川口に870間の石堤を築いて松を植えて、これが千本松として一躍、浪華名所にもなっています。しかし水運の良い安治川が出来てからは航路の主導権を奪われ、大正元年(1912)の川筋の停泊数は、安治川が2,221隻、木津川1,336隻、尻無川620隻という記録が残っています。その後、第一次世界大戦の造船ブームや自動車工場の進出で近代化していきました。

③ 木津川口の戦い

元亀元年(1570)、石山本願寺と織田信長が石山合戦を開始。天正4年(1576)には石山本願寺側についた毛利水軍600隻と、信長方の九鬼嘉隆水軍300隻が木津川口で戦いましたが、信長方が多くの船を焼かれて大敗。毛利水軍は石山本願寺内に兵糧・援兵を運びました(第一次木津川口の戦い)。この敗戦に激怒した信長は、嘉隆に対して燃えない船を造るように命じ、嘉隆は船に鉄を貼った鉄甲船を建造。天正6年(1578)に嘉隆率いる6隻の鉄甲船と毛利水軍が再び木津川口で戦い、見事に毛利水軍を撃破しました(第二次木津川口の戦い)。この海戦で石山本願寺の孤立と織田軍の優位が決定的になり、石山合戦は終結に向かっていきます。

④ 船町工場群 (映画「ブラックレイン」ロケ地)

明治16年(1883)、三軒家の大阪紡績会社(現・東洋紡績)がイギリスより日本初の蒸気式の紡績機を導入すると、大阪は日本一の紡績工業都市となり、「東洋のマンチェスター」とも呼ばれました。その後、船町に造船所や製鋼所などが作られて、阪神工業地帯の重工業集積地に姿を変えました。現在でも中山製鋼所や日立造船の工場群が立ち並んで見るものを圧倒させてくれます。また平成元年(1989)公開のアメリカ映画「ブラック・レイン」(監督リドリー・スコット)のロケ地にも選ばれています。

⑤ 藤永田造船所・船町工場跡

藤永田造船所は前身を「兵庫屋」といい、元禄2年(1689)、大坂堂島船大工町に船小屋として創業しました。日本最古の造船所で、明治維新以後は近代的造船所に脱皮。日本海軍の艦艇や鉄道車両を製造して、とくに駆逐艦建造では有名で「西の藤永田、東の浦賀」と呼ばれました。戦後も貨物船建造、LPG船建造などを行っていましたが、昭和42年(1967)、企業競争力強化のため三井造船に吸収合併されて、278年の歴史に幕を閉じました。戦前の船町には藤永田以外にも、旭造船、原田造船、新田造船などが集積していました。

これぞ大正ロマン! 渡し船に乗って 巨大工場見学 ~木津川飛行場跡と船町工場群と~

明治16年(1883)、三軒家に大阪紡績会社(現・東洋紡績)が設立されると、大正区は日本一の紡績工業都市となり、大阪は「東洋のマンチェスター」とも呼ばれました。近代化の波は船町・鶴町にも押し寄せ、日本初の公共飛行場や造船所、自動車工場などが設立。阪神重工業地帯の一翼を担いました。いまでもその痕跡をとどめる船町工場群は必見です!

⑥ 日本GM[ゼネラル・モーターズ]工場跡(鶴町1丁目付近)

大正15年(1926)、大阪市が4年間の市税免除など好条件を提示して、アメリカの自動車会社GMの誘致に成功。昭和2年(1927)に当地に日本GM株式会社が設立されました。当時の日本の工業水準では、質の高い部品作りは不可能で、部品や組立機械などは全てアメリカから持ち込まれ、アメリカ人の監督で日本人労働者が従事しました。シボレーブランドの貨物自動車、乗用車の生産がメインで、年間約1万台を生産。「販売の神様」といわれたトヨタ自動車初代社長の神谷正太郎なども日本GMで販売広告部長を担当して、昭和10年(1935)にトヨタに移籍しています。しかし昭和11年(1936)の自動車製造事業法施行で国産メーカーが優遇されて工場は衰退。昭和16年(1941)に撤退しました。ちなみに鶴町東側の恩加島にはクボタ恩加島工場がありますが、クボタ創業者・久保田権四郎が大正8年(1919)に出資して作られたのが「実用自動車製造株式会社」です。大正15年(1926)に快進社と合併して「ダット自動車製造」となり、日本初の国産自動車メーカーとして日産自動車の前身となりました。

⑦ 鶴町中央公園(鶴町パネル)

鶴町地域は大阪市が築港計画(明治30年~昭和3年)の埋立てで造成されました。難波宮近くの光景を田辺福麻呂が詠んだ「潮干れば 葦辺に騒ぐ白鶴(百鶴とも)の妻よぶ声は 宮もどろに」(『万葉集』巻6-1064)から町名が名付けられました。昭和5年(1930)から昭和11年(1936)まで中央気象台大阪支台が設置され、昭和9年(1934)の室戸台風も観測しています。



【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。
【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。http://www.osaka-asobo.jp または「大阪あそ歩」でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。